愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	日本経済論		
担当者(Instructors)	岩本 光一郎	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

第二次世界大戦後、日本は高度経済成長期を経て世界有数の経済大国となったが、バブル経済崩壊後は周知の通り低迷期が長く続いた。このような流れの中で、これからの日本にとって大切なことは、過去の繁栄を支えてきた要素のうち、どれがこれからも有効に機能しつづけ、他方でどの部分が機能不全に陥っているのかについて冷静に仕分けして、その上でこれからの日本経済に適応する制度や仕組を考えることである。この講義では、日本経済のこれまでと現状をさまざまな角度から客観的に分析し、その上で、これから取り組むべき課題を明らかにしてゆく。なお、質問等の受付については、授業内に指示する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義はパワーポイント資料の解説を中心に、黒板への板書も併用する形式で進行する。また、定期的に講義内容に関するレポートと練習問題を課題として課す。 ※月に一回程度、リモート講義を行う予定

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	講義全体を俯瞰し、取り組むべきイシューとその狙いを把握する	□
第2回	戦後日本経済を振り返る 1： 戦後の混乱と復興	占領・復興期(1945-59年)を概観する	□
第3回	戦後日本経済を振り返る 2： 高度成長期	高度成長期(1960-70年)の発生要因とその屈折について概観する	□
第4回	戦後日本経済を振り返る 3： 国際化と貿易摩擦	1980年代の日本経済の国際化と、海外との経済摩擦について概観する	□
第5回	戦後日本経済を振り返る 4： バブルとその崩壊	1990年代のバブル崩壊の状況を整理し、長期経済停滞が始まった要因を考察する	□
第6回	戦後日本経済を振り返る 5： 構造改革	2000年以降、近年までの小泉構造改革およびその反動について振り返る	□
第7回	総括 1	ここまでの講義（近代日本の経済史）を総括する	□
第8回	経済成長の減速と日本的経済システム	高度成長期後とバブル崩壊後の経済低迷期の相違点について議論する	□
第9回	人口の少子・高齢化と労働市場改革 1：人口動向の推移	少子高齢化を中心とする人口動向の変化と今後の予想推移について概観する	□
第10回	人口の少子・高齢化と労働市場改革 2：日本的雇用慣行	日本的雇用慣行について、その特徴と正負の両側面を考察する	□
第11回	社会保障と税の一体改革	公的年金や医療保険の現状を概観し、財政再建の必要性について議論する	□
第12回	TPPの意義と農業改革	TPPの中身についての理解を深め、農業政策の現状と今後のあるべき姿について議論する	□
第13回	アベノミクスと経済成長戦略 1： マクロ経済政策について	実施されたマクロ経済政策（金融・財政政策）について概観し、議論する	□
第14回	アベノミクスと経済成長戦略 2： 成長戦略について	制度や規制の改革を通じた成長戦略の中身について理解を深め、議論する	□
第15回	総括 2	後半の講義イシューについて振り返り、総括する	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前にテキストの該当箇所を読んでおくことを推奨する（2時間程度）。事後学習としては自分の書いたレポートと講義時のメモを読み返し、必要があれば修正することを推奨する（2時間程度）。また月一回程度のリモート回では、講義内容に則した事後課題を出すので、自宅で回

答し、提出すること。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題やレポートについては、次回の冒頭に出題の意図を解説し、回答例を提示する。なおこれらの提出物については、内容が基準に満たないと判断される場合、再提出を要求する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2021地域ビジネスDP2	様々な経済事象について自分なりの解釈・評価を行い、これを他者に自分の意見として発信できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
60%			0%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

・その他の中身は、事後課題（ミニレポートや練習問題）と平常点となっている。
・上記は合否に関する評価基準である（A～Cのグレードについては基本的に筆記試験の結果を反映する）。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	八代 尚宏「日本経済論・入門 第三版」有斐閣	978-4641166103
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	小峰隆夫・村田啓子 「最新日本経済入門（第6版）」日本評論社	978-4535559028
2		
3		
4		
5		